

文化情報誌

たわわ

2026 No.127

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



okapi the guitarman

ギタリスト okapi Kimura さん

音楽との最初の接点は母がプロのバイオリニストだったこともあって、3歳から始めたバイオリンでした。ただ、やらされ気質で続けていたため、17歳でエレキギターに憧れ、軽い気持ちで転向、みるみるエレキギターに熱中しました。高校、大学時代はバンドを組んで活動していました。そんな中、大学2年の頃、今は亡き叔父が聞かせてくれたアコースティックギタリストの演奏に『こんな世界があるのか』と衝撃を受け、それがアコースティックギターを始めるきっかけとなりました。活動名「okapi」は、所属サークルで「バンド名決めて」と言われ「ソコなのにな・・・」と困っていたので、これも軽い気持ちで某動物園で可愛かった動物「オカピ」から取りました。



東京公演のワンシーン

やり始めるとのめり込むタイプなので、アコースティックギターに没頭しました。ただその頃はプロになるつもりはありませんでした。でも、大学の卒業式を控えた直前に後輩から「オカピさんはプロにならないんですか？」と聞かれ「いや、僕なんか」と流していたら「オカピさんは自分を過小評価し過ぎです！」と発破をかけられました。とは言え、就職も決まっていたので、そのまま勤めるつもりでした。しかし卒業式の時に、大学の創立者に『社会に出て自分が何をするのかここで誓い、それを決して忘れないでください』と言われ、そこでなぜか僕は『世界平和の役に立てるようなギタリストになります』と誓っていたのです。

入社はしましたが、僕はそのまま死ぬまで毎日会社に通うのか・・・？と悩み始めた頃に会社の先輩と話す機会があり、その先輩に「俺も昔ドラムやってたんや。お前音楽やってんやろ。プロ目指してんなら、いつこの会社辞めるん？」と関西弁で諭されました。ショックを受けて席に戻ったら、パソコンにたまたま岡本太郎の『芸術家は迷ったら困難な道を選べ』という格言が表示されていたんです。あまりのタイミングの良さに驚き決意を固め、4日後に辞表を提出し音楽活動でプロになると決めました。当時の会社には申し訳ないのですが、4ヶ月で辞めました。

もちろんすぐに音楽で稼ぐことなんてできません。財布に本当に2円しか入ってない時もあり、とてもきつかったですね。

それでも、やり続けていればどこかで見てくれる人がいるんですね。当時YouTubeに遊びで演奏動画をアップしていました。まだバージョンが古く英語版しかなかったので反響はないだろうと思っていましたが、それでも当時20万回ほど再生され、多数のメッセージを頂きました。その中に、片言の日本語で「オカピさんのファンです。韓国でライブを！」と送ってくれた人がいたんです。その後も何回か彼からのメッセージが届き、韓国での演奏を決めました。ソウル梨泰院で初の海外公演をさせていただき、そのご縁から毎年のように韓国公演をするようになりました。その時期から中国やマレーシアなどアジア圏で演奏する機会に恵まれました。ヨーロッパに行くきっかけも、ポーランド人の小学校教師からのYouTubeメッセージでした。それが成功したことでドイツのギタリストとも知り合い、お互いの国で公演ツアーを開催することができました。本当にいろいろ



台湾公演でドイツのギタリストと!

な人と繋がることで、思いもよらない国・場所で演奏できました。思い返すと大学の後輩、会社の先輩、韓国の彼、ポーランドの先生やいろいろな国のギタリストなど、自分の周りに集まってくれた人たちに一步一步成長させていただいたと思います。本当に感謝しかありません。

ギターは自己流で覚えました。ビデオやDVDを見て、真似することから始め、「弦をこう押さえたらこういう音が出る」とか、鏡を見ながらひたすら練習の毎日でした。いろいろなアーティストの演奏を取り入れて自分の技術と混ぜり合い、少しずつオリジナリティが生まれてきたように思います。音楽表現として感動していただきたい思いから、表現をより豊かにするために弦を弾くだけでなく叩いてリズム音も入れています。また、歌が無いインストルメンタルにこだわっているのは、元来言葉にすることが苦手だったことが大きいです。言葉にできない気持ちを音に乗せていく感じです。歌詞に左右されずに聴いた時の気分や状態で自由に想いを馳せていただきたいと思います。言葉がない分、曲に込める想いは多くあります。例えば「BLUE」は輪廻転生にある魂が帰る場所を命の海として想い、「SORA」は韓国公演のきっかけを作ってくれた彼の死を悼んで作曲しました。また、曲名も工夫していて、英訳したときに自分の趣と違ってしまうことがあるので、あえて音をそのままローマ字表記にしている曲名が多いです。例えば「Yumemidori」（夢見鳥）は「蝶」の異名ですが「a butterfly」でもないですし「akatsuki」（暁）はただの「dawn」とすると何か味気なくなるんです。漢字表記にすると中国語で違う意味になる時もあります。例えば「tegami」は「手紙」と書くと中国語では「トイレトペーパー」の意味になってしまったりします。なので、何故こう表記したのかと興味をもって聴いてもらいたいですね。



上海公演のワンシーン

平塚は生まれ育ち、今も住んでいるので愛着はとてもあります。コロナ禍をきっかけに平塚からあまり出なくなった時期に、平塚にはいい飲食店が沢山あることに気づきました。そこで出来た輪でいろいろなご縁を頂き「すごい居心地の良さ」を肌で感じるようになりました。今では本当に自分の地元・地元だという気持ちがあります。平塚で何か面白いことができたり、他市や他県の人が平塚に来て楽しんでくれたら嬉しいです。自分の演奏で地元の人にも喜んでいただけるのが一番ですけど、「アコースティックギタリストを目指す人へのワークショップ」や「平塚出身で海外で活躍しているアーティスト」としてモデルケース紹介とかできたらいいですね。また、昨年平塚市からお声かけいただき、リトアニア訪問に参加できたのもとても光栄でした。こういったことでも地元に貢献できると思いますので、今後も頑張っていきます。

【プロフィール】 okapi Kimura

平塚生まれ・市内在住

バイオリンから17歳でギターに転向。27歳からプロギタリストとして活動を始める。アコースティックギターで右手を駆使しリズム・コード・メロディを同時に出す特殊奏法を主とする。東京・神奈川を中心に活動。中国・韓国・マレーシア等のアジア各国やドイツ・ポーランド・フィンランドなどヨーロッパ各国からも招聘され演奏している。2022年、JR東海「そうだ、京都いこう」CM建仁寺篇のギターに採用。NHK北見放送局天気予報のBGMに採用など各種メディアにも使用される。



木谷^{みのる}實・星のプラザ通信③

「木谷實・星のプラザの企画展示」

～木谷實の地方回り指導碁と子どもたちとの出会い～

「木谷實・星のプラザ」(ひらしん平塚文化芸術ホール2階)では、4カ月ごとに展示内容を入れ替える「企画展示」を行っています。



今回は、木谷が戦前から続けていた地方回り指導碁と、その中で巡り会った門下生に関する写真や棋譜などを展示した企画展示「木谷實の地方回り指導碁と子どもたちとの出会い」の一部を御紹介します。

●戦後の地方回り指導碁 木谷の旅路●

木谷は戦前から行っていた指導碁を、戦後の混乱期にも地方回りをしながら続けていました。ここで知り合った地方の有力者を通じ、木谷は多くの門下生たちと巡り会います。



この展示では、戦後の地方回りの旅路を、要した時間を示しながら紹介しており、木谷が地方回り指導碁へ注いだ情熱を感じられます。

●地方回り指導碁棋譜(複製)●

地方の有力者との対局棋譜(複製)を11名分展示しました。さまざまな業界の有力者との対局からは、囲碁による人脈の広がりを感じられます。



●月刊誌「囲碁クラブ(1962年第8巻第4号)」●

木谷と大竹英雄(現：名誉碁聖)が出会った時のエピソードを掲載した「囲碁クラブ」を展示しました。また、二人を引き合わせ、そのエピソードを「囲碁クラブ」へ寄稿した高田寿夫が木谷と対局した際の棋譜も展示しています。



●文化情報誌「たわわ」木谷道場の人々●

平塚市博物館学芸員によって「木谷道場の人々」という記事を連載していた「たわわ」25号(平成10年6月)～34号(平成12年5月)を展示しました。掲載記事からは木谷道場の弟子たちの入門経緯などを知ることができます。



●企画展示情報●

開催期間：令和8年2月2日(月)～令和8年5月29日(金)

企画内容：「好敵手呉清源と鎌倉十番碁」

☆姉妹都市提携35周年☆ ローレンス市から公式訪問団をお迎えしました



記念碑除幕式でのあいさつ

平塚市とローレンス市(米カンザス州)が1990年9月に姉妹都市提携を結び35周年を迎えることを記念し、2025年10月にローレンス市の副市長をはじめとする公式訪問団9人が平塚市を訪れました。

訪問団はまず、平塚市役所にて落合市長と面会した後、市役所本館に建てられた記念碑の除幕式に出席しました。交流を長年支えるケヴィン・ポートライト氏はあいさつで「私は平塚市との交流のおかげで人生が変わった。この記念碑が今後も永遠に続いていく両市の友情のシンボルになることを願っている。」と嬉しそうに語りました。なお、この記念碑は、平塚市国際交流協会(福澤正人理事長)から平塚市に寄贈されたものです。

夕刻には記念レセプションが開催され、平塚市国際交流協会のFOL(フレンズ・オブ・ローレンス)をはじめとする約70人の市民が参加し、35周年を祝いました。冒頭ではローレンス市のブラッド・フィンケ

ルダイ副市長から、地元のアーティストが手掛けた記念の絵画が落合市長に手渡されました。

滞在期間を通して、FOLの皆様が市内外のさまざまな施設の視察、ハンコ彫りや茶道等の日本文化体験、そしてホームステイ等、たくさんのおもてなしを訪問団に用意してくれました。平塚市を訪問するのが今回で4回目となるメリッサ・ロス氏は、「平塚市民の皆様の温かい歓迎、そしてお気遣いに訪問団全員が感動した。都市同士の形式的なつながりではなく、市民一人ひとりと家族のような関係になれたことが嬉しい。」と、35年間の姉妹都市交流が育んだ絆に改めて喜びを感じていました。



35周年記念の絵画



受入れに携わったFOLメンバーと

ひらしん平塚文化芸術ホール 主催事業レポート Vol.9

ひらしん平塚文化芸術ホールで実施している、さまざまなジャンルの事業の様子をお届けする主催事業レポート。第9弾の今回は、「オープンライブSPECIAL # 21 ^{レガロス}Regalos(倉井夏樹&露木達也)」をご紹介します。

「オープンライブ」は、ひらしん平塚文化芸術ホールのオープンな空間を活用して行う入場無料・予約不要のライブです。「SPECIAL」シリーズはプロのアーティストが出演します。今回は、11月8日(土)にひらしん平塚文化芸術ホールの多目的ホールで開催されたオープンライブSPECIAL # 21、ハーモニカ奏者の倉井夏樹とギター奏者の露木達也によるアコースティックデュオ「Regalos」のライブの様子をお届けします。



この日の「オープンライブ」は、普段は閉じられているエントランスホールとの仕切りが開けられ、開放的な会場に用意された客席は開演前からほぼ満席となり、追加で椅子が出されるほどのお客様で埋まりました。

定刻になり「Regalos」が登場すると、プロとしてそれぞれ活動していた二人が、湘南出身という共通点から意気投合して結成されたデュオという紹介がされ、ファンはもとより、初めて演奏を聴く人も一気に親しみを感じているようでした。

ライブはタンゴの楽曲である「El Dia Que Me Quieras (思いの届く日)」から始まりました。心温まるような優しいハーモニカとギターの音色に、期待と緊張感があつた会場の雰囲気はほぐれ、熱心に聞き入っていました。その後もボサノヴァやポピュラー音楽の名曲、日本の童謡等多彩な演奏が披露されました。アンコールの大きな拍手も起こり、ハーモニカの倉井夏樹のオリジナル曲「小さな贈り物」で、30分ほどのライブを締めくくりました。



終演後、とても明るい表情で楽しそうに感想を話しているお客様も多く、このライブが皆の心に残るものになったことが伺えました。

今後も「オープンライブ」では、プロのアーティストによる「SPECIAL」シリーズと地元アーティストによる「NEXT」シリーズを織り交ぜ、毎月開催してまいります。開催スケジュールはひらしん平塚文化芸術ホール内にあるポスターやホームページで掲載されています。お気軽にご来場ください。



発行 平塚市文化・交流課

〒254-8686 平塚市浅間町9-1

電話 0463-32-2235

FAX 0463-21-9756

E-mail: bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和8年(2026年)2月15日発行



右の2次元コードより文化情報誌「たわわ」へアクセスできます▶▶

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課までご一報ください。

■平塚市文化振興基金にご寄付くださった方

【令和7年(2025年)10月1日から令和8年(2026年)1月31日まで】

●令和7年(2025年)11月26日 竹遊会

●令和8年(2026年)1月26日 社会福祉法人 進和学園
しんわ本人自治会連合会

※敬称略